

# 産地戦略

実施期間 令和7~11年度

実施主体 岐阜市だいこん部会協議会  
 都道府県 岐阜県  
 対象地域 岐阜市  
 対象品目 だいこん



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	● 温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

環境負荷低減をより一層推し進めるため、ポリマルチの代替として「生分解性マルチの使用」、「くん蒸剤による土壤消毒」、除草剤使用を廃し、「うね間に大麦を用いたリビングマルチ」を組み合わせた新しいだいこんの栽培体系である「グリーンな栽培体系」の普及を行い、「環境負荷軽減効果」と「作業工程数の削減」をねらう。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名							だいこん播種			収穫			■ 体系図は、春だいこんを例示 ■ 秋冬だいこんは原則ポリマルチ不使用（1月収穫のみマルチを使用）。 耕起
技術名							ガス抜 フィルム被覆 くん蒸剤施	ポリマルチ被覆	除草剤施	マルチ回収			※ 2回目の除草剤は繁茂した場合にのみ必要に応じて使用

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名							だいこん播種			収穫			■ 体系図は、春だいこんを例示 ■ 秋冬だいこんは1月収穫のみ生分解性マルチ使用。	
技術名							生分解性マルチ被 リビングマルチは 代替農薬施	覆土 耕起（すき込み）						

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R3	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	13 ▶ 13		
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0 ▶ 9		
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0 ▶ 9		
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0 ▶ 9		

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境省力	ポリマルチを用いたうねの被覆	▶ 生分解性マルチを用いたうねの被覆	廃ポリマルチ排出量の削減 栽培後のマルチ回収作業及び排出作業の削減
環境省力	土壤くん蒸剤による土壤消毒	▶ 粒剤に転換した防除（くん蒸剤廃止）	防除体系のリスク換算値の低減、VOC低減 防除作業の軽労化
環境省力	除草剤を用いたうね間の雑草管理	▶ リビングマルチ利用による除草剤使用削減	化学合成農薬の使用削減 雑草管理の省力化

### 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境省力	廃ポリマルチ排出量 (kg/10a)	<b>30</b>	▶ <b>0</b>	
環境	防除体系のリスク換算値 (kg/10a)	<b>6.2</b>	▶ <b>0.5</b>	くん蒸剤+除草剤 6.1 → 代替農薬 2 剤 0.5
環境	リビングマルチ利用による除草剤使用回数 (回)	<b>1</b>	▶ <b>0</b>	
省力	作業工程数 (作業数)	<b>8</b>	▶ <b>5</b>	マルチ作業3→2、土壤消毒作業3→1、うね間雑草管理作業2→3（耕耘は共通作業のため合計では重複分を削除）

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する  
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

### グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

生産者部会主催の研修会等で、本事業で検証した技術の周知および技術指導を行い、普及・定着を図る。

### 関係者の役割

関係者名	則武鷺山園芸振興会	岐阜農林事務所		
役割	・研修会開催、情報発信	・技術指導		

### その他